ヤンサノエ

会報　2010　No.13

発行　江差追分会

2010.6.15

北海道桧山郡江差町中歌町193-3
TEL 0139-52-5555
FAX 0139-52-5544
ホームページアドレス　http://www.hakodate.or.jp/oiwake/

平成二十二年度事業計画の目標
明治四十三年追分研究会組織して百年
「永遠なる江差追分」をめざして

今年の4月25日に江差追分会館に併設して建設した江差山車（やま）会館に展示している２台の山車。
左側が松寶丸。右側が神功山。いずれも北海道有形民俗文化財に指定されている。

明治四十三年（一九一〇）平野源三郎師らの主唱により、江差追分研究会が、江差で組織されました。それから二十五年後、昭和十年（一九三五）当時競合していた新地節、浜小屋節、詰木石節の各派が統一して江差追分会を発足させました。

戦時中は追分活動も停滞してましたが、戦後の昭和二十二年（一九四七）谷口太一町長が江差追分会を再発足させて活動が復活、ラジオ番組の出演や全国民謡大会出演で江差追分節の名声が全国に知られるようになりました。

昭和三十八年（一九六三）九月、第一回江差追分全国大会を旗揚げしてから、回を重ねるごとに追分ファンが急増し、本年で四十八回を迎え二年後五十回の半世紀が迫っています。

こうした江差追分の歩みをふり返ってみると、紆余曲折を経ながら会員の熱い支援が今日の江差追分の繁栄に結びついたものと思います。しかし近年の少子高齢化現象により、会員は減少傾向を辿っております。一方子供会員が微増し、ヤング会員も増加傾向にあることが将来展望に期待されるものがあります。これは町内の小中学校をはじめ、旭川、滝川、深川など児童生徒に対する取組みの成果と言えるでしょう。

追分研究会から百年、全国大会から半世紀に迫る今年「永遠なる江差追分であるために」を基本目標に、地域文化として江差追分の将来を見据え平成二十二年度事業計画を定めました。

（「事業計画はじめに」より抜粋）

（総会の詳細は二ページに掲載しています。）

平成二十二年度江差追分会総会

第五十回全国大会に向け企画検討委員会を設置
師匠会が大会審査の「絶句」減点基準を改正

本年度の江差追分会総会が四月二十五日ホテルニューえさしで開催、新年度の事業計画、予算が決定された。

開催にあたって桧山振興局（桧山支庁改変）高橋則克局長が生活にとけこんだすばらしい江差追分を地域の文化として、次の世代に引き継ぐことに努力したいという祝辞を述べた。

本年度予算総額は二千四七八万一千円で前年度より一九四万八千円減額となったが、事業内容を圧縮して事業執行することとし、全体では例年に変わらぬ事業を行うこととしている。

追分会の重要事業である追分全国大会が二年後には半世紀を迎える節目となることから第五十回大会は記念大会として盛大に行うことが確認された。地域の文化として追分を将来にわたって継承することを目標に企画検討委員会を立ち上げる。委員会の構成は理事、師匠のほか会員外の委員も加え広く意見を求め、将来にむけた大会のあり方も検討する。そのほか主な事業は次のとおり。

◆熟年、一般年齢基準の繰上げ

大会出場基準年齢の繰上げは前年の第四十七回大会から始めたが、本年は平成二十二年一月一日を基準に一般満六六歳以下、熟年満六七歳以上とし、三年後には熟年を七〇歳に繰り上げる。

◆大会審査基準の徹底

平成二十二年度師匠会総会で審査基準の三位一体の原則をより徹底するため「絶句」の審査方法を一部改正した。従来は「絶句」の大小をとわず五十点としていたが、改正では大きく明らかな「絶句」は五十点、小さく判断し難いものは審査委員長の判断により、各審査員の主観で三点以内の減点とする。本大会より適用し各支部に徹底する。

◆追分資料音源の公開展示

ビデオテープ、カセットテープの音源資料を昨年から整理してきましたが、史料価値のあるものを選別して、DVDに採録し希望者に公開できるよう引き続き整備を進める。史料の展示コーナーは、山車会館（やまかいかん）の併設に併せて追分文庫室を新設し、書籍文献資料と一緒に資料目録を整備、展示一般公開できるようにする。音源資料はレシーバー再生装置を備え聴けるようにする。

◆追分セミナー二十五周年記念冊子の編集

追分セミナーは昭和六十一年の開講以来二十五周年を迎えたが、受講者の投稿、年度ごとの写真を収録した記念冊子を編集発行する。事務局では手持ちの記念写真を募集している。

地区選抜大会の開催日程

全国十地区で六月末まで

全国大会の出場者を審査する十地区の選抜大会。地区選抜大会では全国大会の審査基準によって審査しますが、この採点事務など一切地区運営協議会で行うよう自主運営を進めている。

江差地区　五月十六日　江差町文化会館
日胆地区　五月二十三日　登別市民会館
道東地区　六月六日　網走市エコーセンター
道北地区　六月六日　留萌市文化センター
函館地区　六月十三日　函館亀田福祉センター
関西地区　六月十三日　京都右京ふれあいセンター
東北地区　六月二十日　山形遊佐町生涯学習センター
関東地区　六月二十日　東京千代田区科学技術館
北信越地区　六月二十日　金沢石川県女性センター
札樽地区　六月二十七日　札幌サンプラザ

（取材　松村　隆　学芸理事）

追分会師匠会長の改選

本年二月師匠会において第三代会長青坂満師が九期十八年の任期を終えて退任。後任に近江八声副会長が第四代会長に就任した。

（聞き手・松村　隆　学芸理事）

青坂　満

相談役・上席師匠

初代近江八声、佐々木千代吉師に師事、第六回大会優勝、平成四年師匠会長、追分会館専任指導員。

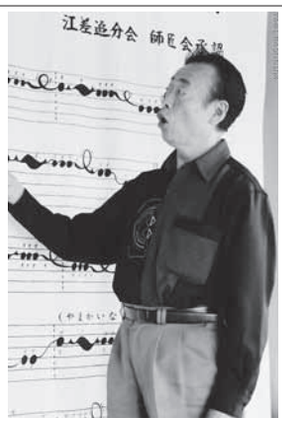
鴎声会会主　七十八歳。

江差追分は、波の巻き返す形に想いをのせて自然の情感で歌う唄だと想いをこめてきた。師匠会の指導者が増えたこともあって、自分の指導力の弱さから昔からの追分の本質を十分伝えられなかったと反省している。

昔の師匠たちは伴奏なしで自然の中で自らの唄を鍛えた。今は伴奏なしでは唄えない。師匠につかなければ唄えない。室の中で唄うだけで風や波自然の中で唄わない。

先人の唄を学んで欲しい。指導者は他の会の交流を通じて追分の本質を磨いて欲しい。

師匠会の切磋琢磨を期待している。



近江　八声

師匠会長・上席師匠

初代近江八声（父）に師事、第一回大会優勝、昭和四十九年師匠会副会長。

声友会会主　六十九歳。

江差追分の本質である味わい、情緒奥の深さを指導者である師匠会資格者に理解会得してもらうことを目標にしたい。

唄・尺八伴奏、ソイ掛け三位一体で歌うことが追分の基本である。追分の真髄と言われる「二声あげ」の基本ができなければ追分本来の情緒が出せない。師匠会に所属する資格取得者が二百人に及んでいるが、それをまだ理解していない。最近の傾向は単にきれいな声の流れで唄うのが主流になっているが八つの基本の形から自然にとけこんだ情緒を唄わなければならない。指導者はそれを理解、会得することが課題である。

全国十地区のブロックを拠点に師匠会活動を展開してゆきたい。

新年度の主な事業

例年実施されている主な事業としては、指導育成事業と研修会指導者派遣事業が年間を通じて適時実施される。

◇指導育成事業

指導育成事業は、格付審査会・師匠会研修会で特に本年度は伴奏会をたちあげ、尺八部門の具体的な研修をはじめることとしている。

◇格付審査会

格付審査は追分の習得過程を格付審査員が審査して六級から一級まで格付するもので、開催日程は次のとおり。

①全国大会の格付

九月十七日～十八日

午前十時～午後五時　追分会館

②セミナーの格付

十一月六・十三・二十日（土）

平成二十三年二月五・十二・十九・二十六日（土）

開催時間は随時　追分会館

③地方地区の格付

関東・関西・北信越の三地区では地区選抜大会開催時に同時開催する。

北海道については本年度日胆地区で行ないます。

関西地区／京都市

平成二十二年六月十二日

関東地区／東京都

平成二十二年六月十九日

北信越地区／金沢市

平成二十二年六月二十日

北海道日胆地区／白老町

平成二十二年十一月二十八日

◇師匠研修会

本年度は唄と伴奏の両部門で行う。

〈秋季〉平成二十二年十一月十四日（日）

午前九時～午後四時

〈冬季〉平成二十三年二月二十日（日）

午前十時～午後三時

江差町ホテルニューえさし

受講クラス①師匠②準師匠③講師・準講師④二級取得者⑤伴奏尺八部門

◇研修会指導者派遣事業

地方地区会員に対する唄の技術を高めるため師匠の指導者をそれぞれの地区に派遣する。

日胆地区

平成二十二年六月十二・十三日

平成二十二年七月十一日

白老コミュニティセンター

北信越地区

平成二十二年六月十九日　金沢市

東北地区

平成二十二年十一月　未定

道北地区

平成二十二年十一月　旭川市

関東地区

平成二十二年十一月　未定

関西地区

平成二十三年二月　未定

函館地区

平成二十三年三月　函館市

特別寄稿

秋濤や江差追分まだ耳に（上）

波戸岡　旭

昨年の夏、八月一日。和漢比較文学会例会が函館で催されるので、私はその前々日に函館に到着。市内を散策し、翌日は、午後から大沼公園を逍遥しました。大沼公園の潮風はさわやかです。睡蓮の花盛り。点々と河骨（こうほね）も咲き、さざなみだつ湖上を吹く風は、どことなくアクアマリンの色合いを感じさせるものがありました。午後二時過ぎ、公園内にあるレストランで、やや遅い昼食を済ませました。

さて、それからどうしよう、一瞬迷いました。そうだ、江差へ行こうと決めました。息子の運転で江差までは、約二時間。到着は四時半ごろになる予定です。入日の遅い夏とはいえ往復の時間を考えると、「ちょっと思い立つのが遅かったかな、日を改めようか」と思いかけましたが、「いや、やはり今行くべきだ」と、一人がってん。「とにもかくにも『江差追分』の地を見ておかねばならない。何の出会いがなくともかまわない。江差の港を一目見られれば、今回はそれでよしとしよう」と、思ったからでした。その江差に向かいました。海岸が見えてきたときは、やはり四時を回っていました。ニシン御殿や姥神大神宮なども気になりましたが、まず「江差追分会館」が気になります。まだ、開館中でした。受付で「二時半頃までなら、実演を聞くことができたのですがね」と言われました。私は、ざっとひととおり展示物を見て出るつもりで入りました。はやくこの館を出て、日暮れの江差の渚を歩きたいと思っていたのです。館内にはいろいろなコーナーがあり、追分の発祥の地と思われることから、江差内でも幾ども曲の変遷があって、明治四十二年頃諸流派を統一して現在の「江差追分」になったことなどが、わかりやすく展示されているので、ついついたたずんでしまいました。図書コーナーには、瞽女唄（ごぜうた）や瞽女の伝記などまであるので、興をそそられ、またいつか近いうちに来ようと決めました。

図書室を出てから、「さぁ、もう出よう」と思った私の目に、ふと壁に貼られている「江差追分」の歌詞が止まりました。次の歌詞でした。〈忍路高島　及びもないが　せめて歌棄　磯谷まで〉私はこの唄の中の地名がとても気になりました。ことに「忍路高島」は、前からずっと気になっていた地名だったのです。カラオケで三橋美智也の「江差恋しや」を好きでよく歌うもので、その二番の歌詞にもある地名なのです。私は、歌うたびに気になってはいたのですが、「どうやら難所であるらしい」くらいにしか思っていませんでした。資料を整理している二人の若い館員に尋ねてみました。が、ふたりは「わかりません」とのこと。そして「ちょっと、館長さんに聞いてきますから」と言ってくれました。丁寧な対応に感心しながらしばらく待っていますと、館長さんが急ぎ足で来てくれました。そして、「忍路は、いまの小樽の古名です。高島はその中の一地域です（あとで図に高島岬とありました）」と教えてくれたのでした。「唄では、その忍路にゆくことができないと嘆いていますが、それはどうしてなんでしょうか。難所だということですかね」と重ねて尋ねたところ、「そこは鰊場（にしんば）なのです。むかしは、その鰊場には女の人ははいってはいけないところとされていたのです」とのことでした。私は、外にもいろいろ熱心に尋ねるものですから、館長さんは「ずいぶん江差追分がお好きなんですね」と言うのです。「はい、すごい唄ですからねぇ、江差追分は。ところで江差追分にはたくさんの歌詞があるはずですが、それをまとめた本はありますか」と尋ねました。「あったのですが、もうずいぶん前に絶版になりました」。再版はいつのことだか、たぶん、難しいだろうと思ったので、そこで切り上げるつもりになりました。すると「ああ、そうだ。一冊だけあるのでそれをコピーしてあげましょう」と、言ってくれたのです。私のその親切に甘えることにして、それにしてもこの館長さんはお役所の人だろうに、なんとも親切な方だ、と感じ入って待っていました。やがて十頁（九十篇）ほどのコピーを持って、にこにこと「どうぞ」と手渡してくださいました。私は、おいくらですかとたずねたのですが、「いやいや、どうぞどうぞ」とコピー代も受け取らないのです。わたしは、思ったことは言ってしまう性質ですから、「失礼ですが、どうしてそんなにご親切なのですか。よくお役所仕事といって、気持ちのこもらない対応をする人には、よく出会いますが、館長さんのような親切な方にはめったにお目にかかりません」と余計なことを言ってしまいました。すると、彼はますます照れた笑顔になって、「江差追分を愛してくださる方は、やはりうれしいですから」と言うのです。そして、何をお思いになったのか、急に「今日は、まだお時間はありますか」と、私に聞くのです。私は、「今日は函館に泊るので、まだ時間はあります」と答えました。「では、ちょっと待っていて下さい」。そういうと、彼は会館の奥の事務所の方に足早に去りました。何事かは予想がつきません。

國學院大学文学部教授（専攻分野：日中比較文学・日本漢文学）・文学博士

北欧の地に響く江差追分

江差餅つき囃子保存会　事務局長　夏原　茂樹

北欧に位置するフィンランド、人口が五〇〇万人、ちょうど北海道の人口で日本の国の面積を有する国。近年、経済成長とバランスのとれた発展を遂げ、その成功を生み出した教育制度や社会体制などが世界から注目されている国です。北海道とは北方圏交流運動として一九七〇年代より文化、学術交流を行ってきました。

昨年の九月二十五日より十月四日、北海道フィンランド協会の働きにより「フィンランド・日本修交九十周年記念事業」として北海道の伝統芸能のフィンランド公演が実現し、この事業に江差餅搗き囃子保存会の代表三名が参加することになりました。

演目は第一部として札幌新音楽集団「群」による琴と尺八の邦楽演奏、第二部が北海道民謡です。札幌の江差追分会の皆さんが中心となり、江差追分は第二十二回江差追分全国大会優勝者の上林捷二氏、江差三下りは平成二十一年度江差追分全国大会四位入賞者黒森このみさん、その他北海ソーラン節、女工節、北海盆歌、松本晁章師の尺八独奏、そして公演のフィナーレが江差餅つき囃子でありました。

九月二十八日には、今回の事業の主催者でありますフィンランドの日本大使館を表敬訪問、丸山大使の歓迎を受け、翌日の九月二十九日には首都ヘルシンキの旧国立オペラハウスにて公演、会場は四五〇の席の客席が満杯。三十日は中部の教育都市ユバスキュラの市立劇場にて多くのオーケストラのメンバーにも来聴する中での公演、この日も四八〇名程が入場、終了後、市長の歓迎晩餐会が開催され、市民と大いに交流。そして十月一日にはアシッカラという町のホテルにて公演、客席と距離が近く、とても和やかなムードでフレンドリーな会でした。

三会場での公演は何れも好評を博することが出来ました。特に、ヘルシンキでは周辺在住の日本人の方々が激励に駆け付けて下さり、フィンランドの高校生が日本の文化に興味があると流暢な日本語で訪ねて来られ、楽屋で交流。さらにユバスキュラの晩餐会では市の議長と当保存会の西川会長がフレンドリーに抱擁するなど多くの交流を果たすことができました。そして遠い異国から江差を振り返り感ずることは、第二部の北海道民謡の演目の構成が、江差町に由来する江差追分、江差三下り、江差餅つき囃子であり、改めて江差追分を中心とする江差の郷土芸能の価値を再認識したということであります。

「風濤成歌」の中に、「江差追分は昭和十年代追分人気が一気に盛り上がり時代の脚光を浴び公演の機会が増すと共に、沖揚げ音頭や五勝手鹿子舞、江差餅つき囃子、江差三下りなどそれまで細々と伝えられてきた伝統芸能に対する出演依頼も増え、広く世間にその価値を認められ陽の目をみることにもなった。」と記載されています。

私ども江差餅搗き囃子保存会が大舞台の機会に恵まれるのはいつも「江差追分」という存在があっての事、「江差追分」の存在無くして今の江差餅搗き囃子の発展・普及は無かったと思われます。この度の公演への要請も「江差追分」という存在があって始めて実現したものだろうと感じています。この度の公演の機会を与えて下さいました関係者の皆様に感謝を申し上げますとともに今後とも江差の郷土芸能の発展に寄与したいと考えているところであります。

新設された追分文庫室
追分資料の整備公開

江差山車会館の併設の機会に、追分会館二階展示場の一隅におかれていた追分文庫に、充分なスペースをもった追分文庫室が与えられることになったのは、甚だ喜ばしい。

新しい追分文庫では、これまでに収集、利用してきた追分関係図書、写真、音源など各種の資料のほか、今後は姥神祭に関する新旧の記録、写真、ビデオ等、他の郷土芸能も含めて、積極的な収集と利用が図られることになる。

新たな追分文庫室の発足に当たって、昨秋から今年の三月まで、既存の追分関係資料の整理に携わった経験から、これまでの収集資料の内容や、もっと充実すべき点などについてふれてみたい。

〔図書〕 現在の蔵書数は約五五〇冊、追分関係の稀少本やとくにこわれやすい一部の本を除いて開架式の書棚で公開している。今回、書名目録を整備したので一層の利用を期待している。

〔写真〕 追分関係者や公演の場を収めた多数の写真やアルバムが保管されているが、関係者の名前や開催日時、場所、行事名等の記載を欠くため、保存価値が低いものが多い。今後は上記の記載を完備したベストショットを行事以外にもテーマを設定して系統的に整備して行く必要があろう。

〔音源〕 現在の追分文庫の第一の長所は、飯島コレクションをはじめとする古いレコードが充実している点にある。しかし、レコード吹き込みの機会を得た幸運な歌い手のほかは多彩な唄い振りを誇った時代の地元の古老をはじめ、函館や札樽地区、留萌、空知、さらには本州方面など、各地で指導的な役割を果した人々の唄は、ほとんど追分文庫には保存されていない。オープンリールやカセットテープに録音されたそれらの人々の滋味豊かな唄が、遺族や弟子たちの間には遺されているはずで、古い時代の三味線奏者や尺八の演奏家の追分も含め、この際、ぜひ追分文庫の方に寄贈していただきたいものである。

〔記録資料〕 〝どんな記録も記憶に勝る〟（辻鏡峰）という言葉があるが、明治以降、近年に至る追分関係の新聞記事、雑誌記事、単行本の一部からのコピーなど、相当に努力して収集したが、まだまだ不充分である。追分会の書類も昭和二、三十年代のものは皆無に近く、四十年代のものも僅少である。個人のメモでも追分界の動静を伝える記録資料は、姥神祭関係や他の郷土芸能も含めて、決して廃棄することなく、追分文庫のファイルの中に納めていただきたい。

（館　和夫　学芸理事）

上海の地で世界に江差追分をアピール!!
木村香澄さんが日本人の心の江差追分を熱唱します。

現在中国の上海で開催されております「二〇一〇年上海国際博覧会」へ江差追分が出演することになりました。

みなみ北海道観光推進協議会（事務局　函館国際観光コンベンション協会）より、出演要請あったものです。

今回の博覧会への出演は、北海道の魅力とりわけ、「江差追分」を通じて経済成長が著しい巨大市場で今後の大きな観光需要が期待できる中国の大都市「上海市」に世界の人々が集うこの千載一遇のチャンスに心にしみる日本人の心の唄を熱唱して、アピールして参ります。

出演者は次のとおりです。

出演者

唄　木村　香澄（第二九回全国大会優勝者）

そい掛け　福士　優子（第四七回全国大会準優勝者）

尺八　山田　正明（健翔会支部）

三味線　久保田喜和子（菊声会支部）

出演日程

この博覧会は、五月一日から十月三十一日まで開催されておりますが、江差追分を披露すす日程は、「北海道の日」が設定されております次の日程です。

○九月三日

・北海道物産展が開催される上海市内の会場。

○九月四日・五日

・日本館イベントスペースにおいて一日二〇分程度二回。

福士　優子

木村　香澄

久保田喜和子

山田　正明

地区・支部コーナー

江差追分の踊り披露

苫小牧銀星会支部支部長　伊藤　逸栄

平成二十一年十一月八日（日）苫小牧市民文化祭『謡と舞の集い』が開催されました。私達も江差追分の唄と踊りを披露いたしました。踊りは、押野朱美・里架の双子の姉妹が自前の民族衣装姿で踊りました。踊りは、自分達で江差追分のＤＶＤを参考に覚えたものでした。唄は、佐竹真奈が前唄から後唄まで一本通しで唄いました。また、尺八は鎌田大剛（当時中二）、剛輝（当時小六）・隆雅（当時小三）の三兄弟が披露し喝采を受けました。

滝川高等学校で引き続き江差追分の授業

滝川支部長　筧下　恭久

滝川高校の一年生七十八名に今回も昨年の九月十日に江差追分の唄と各種の民謡の指導も行いました。指導者は、佐竹春敏師匠はじめ、水尻繁信、柴田静・井上啓子・桃木君枝先生の四名が担当しました。

最初は、なかなか唄えなかったですが、後半は何とか声が出てきました。ひょっとしたら、この生徒の中に有望株の若者がいるかも知れません。

平成二十四年度より中学校授業で民謡歌唱教材に

教育基本法の改正を踏まえて平成二十四年年度より実施される新しい中学校指導要領音楽科の中で、伝統や文化の教育を充実するために「民謡、長唄等のわが国の伝統的な歌唱のうち、地域や学校、生徒の実態を考慮して、伝統的な声の特徴を感じ取るもの」を歌唱教材選定の観点として新たに取り上げることになりました。

このように「民謡」がこの中に明確に明記されたことは、我々関係者からいたしますとたいへんうれしいことです。以上のような動きになっておりますので、今後益々江差追分への期待が大きく膨らんでくることが予想されます。各地区の支部の皆様方におかれましては、その心の準備をしておいていただきたいと思います。

音江中で市民謡連合会役員ら招き

『特別授業』――発声法など学ぶ

中学生に民謡の魅力伝える

深川市民謡連合会の石崎輝夫会長、瀧本豊壽副会長らがこのほど、市立音江中（伊藤祐輔校長）を訪れ、一年生二十人に民謡の魅力を伝え、発声法などを指導した。同連合会は深川市教委の「地域ボランティア」に登録。音楽科の講師として同校から派遣要請を受けた。

この日の授業のテーマは北海道の伝統的な民謡「ソーラン節」。さっそく、石崎会長が美声を響かせると、生徒たちは真剣な表情で聞き入り、「たくましい感じがする」「音の強弱がはっきりしている」などと感想を発表した。

引き続き、生徒たちは二グループに分かれ、民謡の発声法に挑戦。最初は緊張気味だったが、石崎会長、瀧本副会長から「勢いが大事」「元気よく歌おう」とアドバイスを受け、最後は大きな声で「ソーラン節」を合唱した。

同連合会では「民謡は〝心のふるさと〟。次の世代に伝えていくこともわれわれの役目だと思っている。他校からも要請があれば、積極的に応じたい」と話している。

発声を指導する瀧本副会長㊨

授業の最後に瀧本豊壽準師匠が生徒たちに「心にしみる」江差追分を唄い上げた。

生徒たちは、間近いに聴く江差追分に大感激でした。

（平成21年12月16日　北空知新聞）

事務局からのお知らせ

顕彰者

今年は次の方々を全国大会時で顕彰いたします。

一、特別表彰

・北川　昭（元ＮＨＫ職員）

二、功労表彰

・福田　春作（函館澄声会支部）
・熊野　正宏（登別笛声会支部）
・川村　奈美（仙台支部）
・佐々木東雲（秋田中央会支部）

三、感謝状

・斉藤　勲（東大阪支部）
・故西岡錦謡（福岡県支部）

指導者資格認定者

今回新たな認定者の方々です。

名誉師匠

・崎野　澄（函館澄声会支部）
・田村　重光（釧路支部）

上席師匠

・吉田　翠山（札幌山鼻支部）
・福田　継男（八雲支部）
・渋田　義幸（厚沢部美和支部）

準師匠

・益山　新治（旭川中央支部）
・水野記久芳（菊水会支部）

講師

・神谷　昌利（名古屋大須支部）

準講師

・船津　敏（兵庫県尼崎支部）
・有泉　哲郎（登別こだま会支部）
・大江　恒次（京都竹鴎会支部）
・山村　陽子（函館千鳥会支部）

新支部と脱会支部

四月の理事会では、新たな支部と脱会支部を承認しました。これで総支部数は、一五五支部となります。

〈新支部〉

・函館千鳥会支部
（支部長　丸山　淑男）
二十名　函館地区
・札幌いずみ会支部
（支部長　泉　章藏）
二十六名　札樽地区
・札幌孝和会支部
（支部長　長江亜津子）
二十一名　札樽地区
・鷗濱会支部
（支部長　田所惠次郎）
二十名　関東地区
・九州基繁会支部
（支部長　大楠　基繁）
三十一名　関西地区

〈脱会支部〉

・東京七波節会支部
（支部長　佐々木　誠）
・岩見沢支部
（支部長　成田　正雄）
・富山県とやま支部
（支部長　横山　堯）
・滋賀県彦根中央支部
（支部長　三浦　幸輝）

江差追分セミナーの追分酒場の写真をお持ちの方へ

本セミナーが始って今年で四半世紀の二十五回を迎えました。この節目の年にあたり、小冊子の作成を議決いただきましたが、追分酒場の当時ならではの写真をお持ちの方がいらっしゃいましたら、簡単なコメントを寄せて、事務局まで送付いただきますようお願いいたします。

・送付期限　八月末まで

江差追分のテレビ放映

江差追分が次ぎのとおり全国・全道放映されますので、是非ご覧下さい。また、知友人関係の方々にもお知らせ願います。

番組名　ＢＳ朝日「日本風景遺産」

放映月日（予定）
ＢＳ朝日（全国）
・七月六日(火)午後九時から
ＨＴＢ（北海道）
・七月十九日(月)午後一時三十分から

放映内容

報道ステーションのコメンテーターでお馴染みだった加藤千洋さんが小樽から江差までを旅するものです。

出演者　青坂満上席師匠
中島琴美・弥生姉妹
（かもめ会支部）

事務局員の異動

四月一日付の江差町の人事異動に伴い、次の職員の異動がありました。

西海谷靖前次長につきましては、町民福祉課に異動となりました。二年間という短い期間ではありましたが、皆様方にはたいへんお世話になりました。また、後任の国仙敏孝次長につきましては、以前にも事務局経験があることから、顔馴染みの方もいることと思います。前任者同様に今後ともよろしくお願いいたします。

事務局より

今年の江差追分会総会と江差山車会館のオープンが午前と午後に分かれての開催は、しんどかったです。でも、何とか両方無事に終了し安堵しております。

【編集】岩淵啓介・松村　隆
館　和夫・高田　裕
【企画】江差追分会事務局